

# 行政視察等報告書（個人用）

平成31年1月24日

知立市議会議員 様

報告者	民友クラブ 杉浦 弘一
日時	平成31年1月22日(火) 13:30～15:30
視察(研修)場所	福岡県 春日市
目的	コミュニティ・スクール事業視察

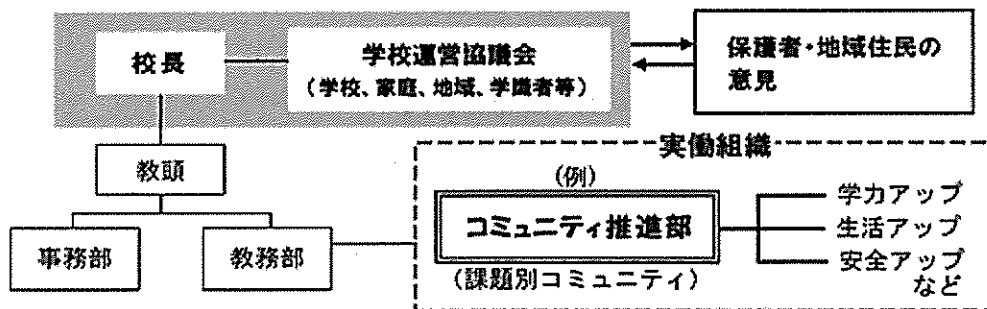
**【概要】**

**春日市 コミュニティ・スクール事業**

**【コミュニティ・スクールとは】**

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）とは、学校の運営に地域の皆さんの声を活かすと共に学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たしながら、共育（共に育てる）を進める新しいしくみ

**【春日市のコミュニティ・スクールの大きな特徴】**



- ① 「協働・責任分担」方式で、地域・保護者と共に信頼される学校づくり
- ② 実働組織（具体的な活動組織）を置いた、関係者同士の連携による実践

**【学校・家庭・地域双方向の連携による豊かな子どもの育成】**

- ① 地域に貢献する教育活動（学校・地域の連携）
  - ・ ボランティア隊の夏祭りへの参画
  - ・ 子どもと地域の人と一緒に和菓子づくり
  - ・ 地域清掃等のボランティア活動
- ② 子どもを見守る・育てる地域活動活動（学校・地域の連携）
  - ・ 見守り隊による登下校の安全対策
  - ・ 6中学校の生徒会サミット
  - ・ 子どもが活動する夏祭り（企画、司会等）
  - ・ 地域と一緒にいるあいさつ活動（あいさつネットワーク）
- ③ 家庭・地域と共に学ぶ学習活動（学校・家庭・地域の連携）

- ・健康カレンダー、健康ウォーク等による健康づくり
- ・地域と一緒にふれあい合同運動会、ふれあいフェスタ
- ・夏休みに地域の公民館を利用して行う公民館学習
- ・学校・家庭・地域と一緒に学び合う「共学」授業
- ・「安全マップ」づくりによる楽しい登下校
- ④ ボランティア活動が活躍する教育活動（学校・家庭・地域の連携）
  - ・ゲストティーチャー（野菜づくり、読み聞かせ、クラブ活動の指導等）
  - ・サポートティーチャー（子どもの答案を採点する花丸・赤ペン先生等）
- ⑤ 家庭学習・生活習慣の形成を目指す取り組み（学校・家庭・地域の連携）
  - ・家庭学習の習慣化を図る「学問のすすめ運動」
  - ・基本的生活の習慣化を図る「早ね早起き、朝ごはん」
  - ・学校と家庭の架け橋「〇〇っこ」ノート
- ⑥ 開かれた学校評価等の取り組み（学校・家庭・地域の連携）
  - ・自己評価と学校関係者評価の実施と公開
  - ・学校からの積極的な情報公開
  - ・学校改善を進める教育モニター会

#### **【コミュニティ・スクールの成果】**

- ① 「学問のすすめ運動」などによる家庭学習の習慣化によって、基礎的・基本的な学力が身につく
- ② 子どもの地域に対する帰属意識が高まり、地域・郷土に貢献しようという地域・郷土愛が高まる
- ③ 授業や行事、教育環境整備などにおいて、保護者や地域住民による学習支援が進む
- ④ 学校支援を通して、学校と保護者、地域住民との相互交流が進み、保護者、住民の学校に対する当事者意識「おらが学校」意識が高まる
- ⑤ 学校による積極的な情報発信により、学校理解が深まり、学校を支える地域基盤づくりに繋がる
- ⑥ 学校・家庭・地域の三者連携により、「共育」活動が充実し、学校・家庭・地域の教育力向上に繋がる

#### **【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】**

**学校・家庭・地域が連携したコミュニティ・スクールの事業活動を通じて、学力の向上はもちろんのこと、地域に対する郷土愛の醸成等に非常に効果があることがわかりました。**

**また、防犯パトロール等の地域活動により、中学生の補導件数が一気に減少（1,046⇒24件/年）したという実績も目を見張るものがありました。**

**但し、この事業を展開していくには、学校（先生）や、地域（自治会長等）に相当な負担がかかってしまうという現実を考慮し、学校・家庭・地域間での十分な協議・調整が必要であると感じました。**

# 行政視察等報告書（個人用）

平成31年1月24日

知立市議会議長 様

報告者	民友クラブ 杉浦 弘一
日時	平成31年1月23日(水) 9:30～11:30
視察(研修)場所	佐賀県 佐賀市
目的	佐賀市地場産品交流会館「肥前通仙亭」事業視察

## 【概要】

### 佐賀市地場産品交流会館「肥前通仙亭」事業

#### 【肥前通仙亭とは】

佐賀市の地場産品をより多くの方に知っていただくため、伝統的地場産品の展示販売と佐賀が生んだ煎茶道の祖、「高遊外売茶翁」の情報発信を行っている施設

#### 【高遊外売茶翁とは】

佐賀に生まれ、蓮池龍津寺に出家。僧名を月海、晩年の号を高遊外と称した。幼少の頃より英才で、黄檗宗萬福寺を始め、日本各地で修行や学問に励み、臨採、曹洞の二禅を極めた知識人であり書家、漢詩人としても知られている。

晩年、京都に通仙亭を構え茶業を始めた売茶翁は、風光明媚な処へ茶道具を担って行き、当時の庶民では口にできなかった煎茶を、禅を説きながら身分の差別なく施した。土農工商の身分制度の中で、高層がその身分を離れ、布施も取らず禅を説く姿に、京都の人々は驚きとともに尊敬の念を抱いた。

#### 【肥前通仙亭の運営】

施設の運営は、基本的にはNPO法人「高遊外売茶翁顕彰会」が行っており、行政は、箱ものの管理をしている程度である。

#### 【展示物】

佐賀市の地場産品（鍋島緞通、佐賀錦、肥前名尾和紙、肥前びーどろ、諸富家具）をはじめ、佐賀のお茶文化や高遊外売茶翁にまつわる資料が展示されている。



【 所感、知立市政への反映に向けた課題等 】

「高遊外売茶翁」の活動に感銘を受けた、人々が集まり NPO 法人「高遊外売茶翁顕彰会」を立ち上げ、現在に至っている。立ち上げ当時のメンバーのみで未だに活動を実施している。このため、これからの後継者や今後の事業の進め方等に苦慮されている。

高遊外売茶翁顕彰会の川本理事から、通仙亭や売茶翁について、懇切丁寧なご説明をいただいた。売茶翁に対する情熱が強く伝わってきました。当然、NPO 法人ということで、赤字経営、手弁当で頑張ってみえるのでこのような事業に対して、行政として、積極的な支援策を考えていく必要があると感じました。

